

ソーシャルビジネスグランプリ2014冬

2月1日(土) 虎ノ門ニッショーホールにて
主催：社会起業家大学／一般財団法人日本政策学校
デモクラシー2.0イニシアティブ

今回から主催が社会起業家大学（田中勇一理事長）、日本政策学校（金野素一代表理事）、デモクラシー2.0イニシアティブ（田坂広志代表発起人）の3者になったソーシャルビジネスグランプリ。田中理事長は冒頭あいさつで、よりオープンなグランプリにという要望に応え3者主催にした点を受け、より多くの人が一歩を踏み出してほしいと訴えた。また今回は、会場およびインターネット中継で見ている方の共感投票により、グランプリが決まる点も新しいしくみとなった。

田坂氏の基調講演では、「先日のダボス会議に出席した際、ビル・ゲイツ、リチャード・ブランソン、トニー・ブレアに、アシヨカフェローのムハマド・ユヌスを加えた4人によるパネル討論が行われたことから、世界的にもソ



社会起業家部門グランプリ受賞者の福島見容さんに、生涯学習開発財団理事長代理で佐藤梨奈から起業助成金30万円の目録が贈呈された。

シャルビジネスの重要性が認識されつつあることを感じた。しかし、もともと日本ではビジネスはソーシャルなもので、本業を通じて社会貢献をする考え方だった。日本がもつ文化が世界を、資本主義を変える力がある」と語った。さらに、「デモクラシー2.0の主旨を訴え、選挙で社会の意思決定に参加するだけの従来型ではなく、一人ひとりが社会の変革に参加する新たな民主主義のカタチを訴え、「目の前の1ミリを変えつつ、まなじりは遠くを見つめていよう」と結んだ。

今回のグランプリでは、社会起業家の中で政治や行政の在り方の変革に取り組む人を政治起業家と定義し、事前リサーチによって、俳優・映画監督・株式会社リバーバースプロジェクト代表の伊勢谷友介氏を、第1回の政治起業家グランプリに選り紹介した。

社会起業家部門では、306ノミネートの中から選ばれた4名の社会起業家がプレゼンを行った。介護現場が深い人間力を養う点に注目し、新たな人材育成事業を目指す福島見容氏が、より多くの共感を集めてグランプリを受賞した。生涯学習開発財団の助成金対象でもある福島氏の取り組みは、本誌5月号でインタビュー掲載の予定。

社会起業家部門



セクシャルマイノリティーの結婚があたりまえの世界をつくり、ビジネスで成功する!

●中村光沙（なかむら ありさ）さん
日本にないビジネスを提供したい中村さん。性的少数者の人が、親を安心させたい、子どもや家庭をもちたいといった理由で結婚を望む、難しいケースを支援。相手探しからその後の結婚生活のあらゆるサポートを予定。



介護現場から学ぶ、生き方・働き方の原点回帰

●福島見容（ふくしま みよ）さん
企業の人材育成をサポートする会社を経営する福島さん。夫の転職を機に介護現場が単なる3Kではない、深い人間力を養う尊い現場であることを知る。NPO法人みらいびとを設立し、人材育成と情報発信に力を注ぐ。



マイカルテで起こす医療情報革命

●森 泰宏（もり やすひろ）さん
病院ごとではない患者のためのマイカルテを提案。病歴や歯のデータ、遺伝子情報などまでも含めたマイカルテが普及すれば、自分の病気が理解できるし、無駄な検査や治療を減らせる。利益中心から患者中心の医療に変えて、「日本はいいよ」と世界に発信したい。



24時間介護相談と介護家族を応援します

●泉 志津子（いずみ しづこ）さん
子ども時代から人の役に立ちたく介護の世界に入ったが、夫の親の介護などを通して、介護家族の苦勞をより切実に感じた泉さん。所沢市で24時間対応のNPO法人ブーゲンピリアを立ち上げ「がんばらない介護」を応援。

政治起業家部門



クラウドガバメントラボで「誰かに任せろ民主主義から、自分で決める民主主義へ」

●伊勢谷友介（いせや ゆうすけ）さん
人類が地球の再生能力を超えない生き方をするための、リバープロジェクトを提言。ワークショップを自治体と協力して行うなど、参加型の新しい政治のカタチを展開し、個の成長と種の成長がリンクする世の中を目指す。

パネルトーク



左から藤沢久美氏、伊勢谷氏、田坂氏、堀潤氏によるパネルトーク。社会起業家が持ち得る（お金以外の）人を動かす力、そして誰もが発信者になれるITの進化を活用しよう。あきらめず自分一人からできる事をやろう。現代の社会問題は元に戻すより新しい価値や形を考えよう。成長はお金では表せないが、お金を否定するのではなく使いかたが大切。etc